

厚生労働行政推進調査事業費補助金（難治性疾患政策研究事業）
 （総合）分担研究報告書
 研究課題：プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況

研究分担者：青木正志 東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
 研究協力者：加藤昌昭 総合南東北病院神経内科

研究要旨

【目的】東北地方におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

【方法】2020年度から2021年度（令和2年度から令和3年度）の2年間における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。主治医へ電話あるいは電子メールによる確認と共に、必要に応じて宮城県の症例については実地調査を行った。その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

【結果】プリオン病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2020-2021年度の2年間で48例であった。内訳としては、青森県7例、岩手県10例、宮城県6例、秋田県10例、福島県8例、山形県7例であった。獲得性クロイツフェルト・ヤコブ病0例、遺伝性プリオン病の症例は5例であった。剖検数は0例であった。

【結語】東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考ええる。

A. 研究目的

東北6県におけるプリオン病の疫学、臨床症状等を調査し、解析する。

B. 研究方法

2020年度から2021年度（令和2年度から令和3年度）の2年間における東北地方在住で新規申請されたプリオン病疑い患者についてのサーベイランスを行った。主治医へ電話あるいは電子メールによる確認と共に、必要に応じて宮城県の症例については実地調査を行った。その他の県の症例についてはその県の専門医に依頼し調査を行った。

（倫理面への配慮）

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行い、患者、家族にサーベイランスに協力いただくことに関して書面にて同意を取得した。

C. 研究結果

プリオン病疑いとして調査依頼をうけた症例は、2020-2021年度の2年間で48例であった。内訳としては、青森県7例、岩手県10例、宮城県6例、秋田県10例、福島県8例、山形県7例

であった。獲得性クロイツフェルト・ヤコブ病0例、遺伝性プリオン病の症例は5例であった。剖検数は0例であった。

2011年から2021年度までの調査の総計は275例となった。未報告例に関しては、主治医への直接の問い合わせおよび各県担当委員に再度調査依頼を行っている。

D. 考察

プリオン病発症率は東北6県人口約1,000万人とすると、年間発症率は約0.23人/10万人/年であり、おおむねこれまでと同様の発症率であった。

E. 結論

東北地方におけるプリオン病のサーベイランス状況を報告した。今後も継続的に調査を行うことが必要であると考ええる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし